



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和7年11月28日
さいたま市立土合小学校



異年齢集団で学ぶ

校長 日比 圭都

師走を迎えるにあたり、教室では子どもたちの笑顔と真剣なまなざしが広がっています。

11月は、校内音楽会・公開音楽会があり、たくさんの保護者の皆様にご来場いただき、心より感謝申し上げます。土合っ子の勢いある合唱や合奏には、私自身も深く感動しました。

低学年の子どもたちは、高学年の堂々とした姿にあこがれを抱いたことでしょう。学校は、異年齢の子どもたちが共に生活する場です。その中で、年上の姿に学び、年下を思いやる心が育まれます。今回の音楽会の迫力は、まさに集団だからこそ生まれたものです。そして、異年齢での活動だからこそ芽生えたあこがれや尊敬の気持ち、子どもたちをさらに成長させました。音楽会での経験は、仲間と力を合わせる喜びだけでなく、人を尊重する心を学ぶ貴重な機会となりました。

さて、私が土合小学校で経験した異年齢のかかわりエピソードを2つ紹介します。

1つ目は、25分休みや昼休みに校長室を訪れる子どもたちの様子です。そこで繰り広げられるのが「土合っ子カルタ」。自然に高学年が読み札を読み、低学年がカルタを取るという構図ができあがっています。異年齢の交流が遊びの中で生まれ、高学年が下学年を気遣う優しい姿を目の当たりにしています。

2つ目は、私が一人で机を運んでいたときのこと。5年生が「持ちます」と声をかけてくれました。そこへ6年生がやってきて、「一人で持てるからウチがやる」と言っていて、机を軽々と運んでくれました。「知り合い？」と尋ねると、そうではないとのこと。学年を超えた思いやりと行動に心が温まりました。

学校は、子どもたちが社会に出る前に、集団の中で協力し、互いを認め合う力を育む場所です。こうした日々の積み重ねが、未来の社会で生きる力につながっていきます。しかしながら、集団の中にと、時には意見の違いや小さな困難を乗り越える経験があるやもしれませんが、それも将来の人間関係や社会生活に欠かせない力となります。失敗や葛藤も、成長の大切な一歩です。12月には「土合っ子まつり」があります。児童会を中心とした異年齢活動です。そこでもまた、子どもたちの成長が見られると思うとわくわくします。

私たち教職員は、子どもたちが挑戦できる環境を整えながら、それらの力を育てていきたいと考えています。これからも、異年齢集団の中で子どもたちが互いに刺激し合い、学び合う学校づくりを進めてまいります。ご家庭でも、お子さんの気持ちに耳を傾け、学校と連携していただけると幸いです。

今年も残りわずかとなりました。子どもたちの成長を共に支えながら、新しい年を迎えたいと思います。どうぞ良い年をお迎えください。

